

令和7年度 コミュニティ・スクール推進校事業 会議録

会議の名称	小学校学校運営協議会		
開催日時・公開等	令和8年	2月19日 ( 木 )	
会議の公開等	公開		(非公開理由)
開催事前告知	令和8年	1月30日 ( 金 )	ブログや校長室だより等で広く地域に周知を行った
開催後議事録等の周知	令和8年	2月20日 ( 金 )	ブログや校長室だより等で広く地域に周知を行った
出席者	学校運営協議会 会長(鈴木 康寛)、副会長(稲岡 真弓)、出川 由貴 校長 友田 充孝、教頭 中野 洋子、首席 CS担当 羽田野 勝治		
欠席者	0		
案件名	①令和7年度 学校教育自己診断結果について ②学校応援ボランティア「さだレンジャー」活動 振り返り ③その他 次年度に向けて		
提出された資料等の名称	①令和7年度 学校教育自己診断結果について		

会議内容

<p>会議録要旨:主体性を育む学校づくりと地域連携のあり方</p> <p>今回の会議では、学校教育自己診断結果をもとに、文科省の指針である「主体性」の育成に向けて、実社会とつながった学習プロジェクトや、学校応援ボランティア(さだレンジャー)との連携、今後に向けた展望について話し合った。</p> <p>1.「主体性」を育む自学自習と課題解決型学習・探究学習</p> <p>自分で計画を立て、逆算して学ぶ力(中高で求められる力)を小学校段階から意識。単なる「一問一答」やドリル学習だけでなく、文章題を読み解く力や、実社会で必要な「考える力」を重視する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「必要感」のある学び:</li> </ul> <p>プロジェクト学習(例:5年生の商品開発)を通じ、デザイナーを招いてパッケージを修正したり、家でキャッチフレーズを考えたりと、「調べたくなる・やりたくなる」仕掛けが家庭学習(自学自習)の質を高めるヒントとなる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリア教育の視点: 理系離れや技術職不足の現状を踏まえ、「好きを極める」ことの重要性や、社会で求められる人材像を共有。</li> </ul> <p>2.実社会とリンクした具体的なチャレンジ事例 今年度、子どもたちが主体となり、自分たちの活動を社会へ発信・還元する動きが加速。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1～6年生や支援学級(ひまわり)全学年がチャレンジした探究学習</li> <li>・合唱部の活動:NHKコンクールへの挑戦、児童会役員による学校かくれんぼ</li> <li>・商品開発とPR:大阪の伝統野菜「大阪穂谷産の大阪黒菜」を使ったピザやチップスの開発。市長に対し、子どもが自ら自分たちの活動をプレゼンする場面も。</li> </ul> <p>3.地域連携の充実:「さだレンジャー」ボランティア力</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高い地域密着度:PTA加入率99%、親子3代同校出身という層も厚く、地域が学校を支える基盤がしっかりしている。</li> <li>・さだレンジャー(ボランティア):延べ200人以上に参加いただいた。「できる人が、できる時に」という緩やかなスタンスで、トイレ清掃や図書ボランティア、給食配膳補助、販売リハーサルでのアドバイザー(消費者代表)として活躍。</li> <li>・安全と持続可能性: 市役所の「市民広域活動保険」等を活用し、ボランティアが安心して参加できる持続可能なサイクルを構築。</li> </ul> <p>4.委員より</p> <p>形式にこだわらないゆるやかな交流があるといよいのでは。</p> <p>委員さんや地域の方と教職員による堅苦しい会議ではなく、「大人のクラス会議」のような顔の見える関係づくりができればと提案。</p> <p>偶発的な繋がり創出:たとえば掃除などの日常活動を通じて、地域住民同士が自然に対話できる環境</p> <p>今後もさだ小学校の活躍が楽しみ。</p> <p>会議後、授業参観実施。</p>
---